

令和5年度

年間学習計画
〈シラバス〉
(1年生用)



高知県立高知北高等学校 定時制 昼間部

はじめに

本校昼間部は、単位制の学校です。

単位制の学校では必履修科目(全員が履修しなければならない科目)もありますが、その他の科目は、将来進んでいく進路を考慮しつつ、自分で選択(登録)していくことになります。

したがって、各教科・科目について、学習計画・学習内容等を知っておくことが大切です。

本冊子は、その参考資料として作成しました。

この「年間学習計画」は、生徒の皆さんが本校昼間部で学ぶにあたり、

1	学習目標	2	学習内容	3	日常の学習にあたってのアドバイス
4	評価方法	5	備考		

等をまとめています。教科登録や日々の学習に役立ててください。

(注意) 1. 授業の進捗については、生徒の実態も考慮しながら進みますので、学習計画表と一部異なる場合があります。

また、体育等の実習を伴う科目の場合、授業の出席者数等によって、学習内容が一部変更される場合があります。

2. この冊子は、令和5年度用に作成されています。



目	次
【国語】	
現代の国語	1
言語文化	3
基礎国語	5
【地歴・公民】	
公共	7
【数学】	
数学 I	9
基礎数学	11
【理科】	
科学と人間生活	13
【外国語(英語)】	
英語コミュニケーション I	15
基礎英語	17
【保健体育】	
保健1	19
保健1	21
スポーツ講座	23
【芸術】	
音楽 I	25
美術 I	27
工芸 I	29
書道 I	31
【情報】	
情報 I	33
【自立活動】	
未来を拓く(Ⅰ～Ⅲ)	35
【その他】	
総合探究	36
特別講座	
色のトビラ	37
手話	39
ハンゲル入門	41
茶道入門	43
中国語入門	45
話し方講座	47

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2単位	学年・科・コース等	1年次
使用教科書	新編 現代の国語 (東京書籍)			副教材等	伝える伝わるワーク		
科目の目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						【知識及び技能】	
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						【思考力、判断力、表現力等】	
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						【学びに向かう力、人間性等】	
評価の観点の趣旨							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとするとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
指導領域		話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと	
配当する授業時数 ※2単位設定の場合 (年間総時間数:標準70単位時間)		20~30単位時間程度		30~40単位時間程度		10~20単位時間程度	

※**知技**=知識・技能、**言葉**=言葉の特徴や使い方に関する事項、**情報**=情報の扱いに関する事項、**文化**=我が国の言語文化に関する事項
思判表=思考・判断・表現、**話聞**=話すこと・聞くこと、**書**=書くこと、**読**=読むこと、**態**=主体的に学習に取り組む態度

学期	月	時間数	評価の観点※						単元名	教材(題材)	評価方法及び言語活動	
			知技			思判表		態				
			言葉	情報	文化	話聞	書					読
前期	4月	6	○					○	1. 伝える伝わるワーク	・義務教育範囲の振り返り	【記述の確認】目的や意図に応じて、文章の種類や文体、語句などの表現の仕方を工夫しながら推敲を行う。	
		5		○				○	2. 自己を見つめる	・ルリボシカミキリの青	【記述の確認】自分が興味関心をもっていることについて、具体例を挙げて紹介文を書く。	
	5月	5		○		○				・気になるニュースについて話そう	【行動の確認】収集した情報を整理し、発表の構成を考えながら、ペア(グループ)で発表しあう。	
		5	○			○			3. 言葉と生活I	・分かりやすい説明をしよう	【行動の確認】学校の場所を知らない人に、口頭で説明する文を作成する。	
	6月	1	○					○	前期中間考査 (評価する単元: 1~3)		【知技内容テスト】「伝える伝わるワーク」「ルリボシカミキリの青」の語彙や文の構造、内容に関するもの等。 【思判表内容テスト】初見の地図を見て、説明する文を作成する。	
		7月	4			○			○	4. 他者に出会う	・水の東西	【記述の確認】本文の要旨を文章にまとめる。
	5		○					○	5. 伝える伝わるワーク	・文章のねじれ・あいまいな表現 など	【記述の確認】文の構造や修飾語・被修飾語の関係などに注意しながら、ねじれない文章を書く。	
	8月	3		○					○	6. 言葉と生活I	・異なる種類の文章を読み比べよう	【行動の確認】本文中の3つの文章を比較し、認識や対処の違いについて読みとり、発表する。
		3		○					○		・グラフや写真の読み取り方	【記述の確認】グラフや写真を比較しながら、情報を読みとる。
	9月	1	○						○	前期期末考査 (評価する単元: 4~6)		【知技内容テスト】「伝える伝わるワーク」「水の東西」の語彙や文の構造、内容等に関するもの等。 【思判表内容テスト】初見のグラフから、内容を読み取る。

後期	10月	4		○		○				7. 社会と関わる	・鍋洗いの日々	【行動の確認】「働くとはどういうことか?」、考えたことをペアやグループで発表し、共有する。		
		3			○	○					・真夏のひしこ漁			
	11月	5		○			○					・憧れの職業について調べ、整理してまとめよう	【記述の確認】「憧れの職業」について調べて整理したことをスライドでまとめる。	
		12月	1	○						○	○	後期中間考査 (評価する単元: 7)	【知技内容テスト】「鍋洗いの日々」「真夏のひしこ漁」の語彙や文の構造、内容に関するもの等。 【思判表内容テスト】筆者の心情や人物像に関する問いに答える。	
	1月		5					○			○	8. 言葉と生活2	・発想を広げる方法を使って話し合おう	【行動の確認】思考ツールを活用して、話し合いを行う。
		2月	3		○						○	○	9. 未来に目を向ける	・推論の仕方
	3月		5			○			○			○		・真の自立とは
		3月	5		○		○					○	10. 言葉と生活2	・相手に応じた言葉の選び方
			1	○							○	○	学年末考査 (評価する単元: 8 ~ 10)	【知技内容テスト】「真の自立とは」の語彙や文の構造、内容に関するものや、正しく敬語表現が使えているか。 【思判表内容テスト】初見の論理的な思考問題に答える。
	備考	通信科目の授業については上記に準じます。 評価は授業時の活動、定期考査、およびレポートの提出により総合的に行います。											合計 70時間	

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	新編言語文化(東京書籍)			副教材等	なし		
科目の目標(学習の目標)							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【知識及び技能】 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】							
評価の観点の趣旨							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
指導領域		話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと	
配当する授業時数 ※2単位設定の場合 (年間総時間数:標準70単位時間)		/		5~10単位時間程度		【古典】40~45単位時間程度 【近代以降の文章】20単位時間程度	

※**知技**=知識・技能、**言葉**=言葉の特徴や使い方に関する事項、**文化**=我が国の言語文化に関する事項
思判表=思考・判断・表現、**書**=書くこと、**読**=読むこと、**態**=主体的に学習に取り組む態度

学期	月	時間数	評価の観点※						単元名	教材(題材)	評価方法及び言語活動	
			知技			思判表						態
			言葉	情報	文化	話聞	書	読				
前期	4月	4	○	/	/	/	/	○	○	1. 随筆を読む ・さくらさくらさくら ・「花」といえば「桜」?	【記述の確認】短歌の内容と読まれた心情について考え、筆者の考えを整理する。 【記述の確認】内容を踏まえて、他の作品での言葉の使われ方を調べ、まとめる。	
	5月	6	/	/	○	/	/	○	○	2. 古文入門 ・古文に親しむ ・児のそら寝	【行動の確認】作品から好きな文章を選び、暗誦する。 【行動の確認】歴史的仮名遣いに注意しながら音読する。	
	6月	5	/	/	○	/	/	○	○	3. 漢文入門 I ・訓読の基本(訓読・格言・再読文字)	【記述の確認】漢文を訓読にしたがって書き下し、現代語訳する。	
		1	○	/	/	/	/	○	○	前期中間考査 (評価する単元:2. 古文入門と3. 漢文入門)	【知技内容テスト】歴史的仮名遣い、訓読のきまり	
		6	○	/	/	/	/	○	○	4. 小説 I 一触れ合う心 ・とんかつ	【記述の確認】文脈に基づき、場面ごとに登場人物の心情をまとめる。	

後期	7月	5			○			○	○	5. 随筆	・徒然草 ・枕草子	【記述の確認】作者の書き方を踏まえて随想的な文章を書く。	
	8月	5			○			○	○	6. 漢文入門2	・故事成語	【記述の確認】故事成語を用いた短文を作る。	
	9月	1	○					○	○	前期期末考査 (評価する単元:4. 小説1、5. 随筆)		【知技内容テスト】語句の読み書きおよび意味。文学史。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や人物像に関する問いに答える。	
	10月	6			○			○	○	7. 漢詩	・絶句と律詩 ・訳詩を書く	【記述の確認】漢詩の一つを選び、内容や表現を吟味して訳詩を書く。	
	11月	5				○			○	○	8. 短歌・和歌	・柳あをめる【短歌】 ・折々のうた ・短歌を作る	【記述の確認】「本歌取り」の技法を使って短歌を作り、相互に批評し合う。
		6	○						○	○	9. 小説2 一 葛藤する心	・羅生門	【記述の確認】原作と比較し、重要と思われる箇所について改変理由について考察し、まとめる。
		1	○						○	○	後期中間考査 (評価する単元:9小説2)		【知技内容テスト】語句の読み書きおよび意味。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や人物像に関する問いに答える。
		12月	6	○					○	○	10. 現代の詩歌	・俳句 ・詩 ・歌詞の意味や表現技法について考えよう	【記述の確認】歌詞の意味や表現技法について考え、まとめる。
	1月	6				○			○	11. 物語	・伊勢物語 ・和歌を自分の言葉で書き換える	【記述の確認】「伊勢物語」内の和歌を自分の言葉で書き換え、元の歌と比較しながら表現の工夫について話し合う。	
	2月	6				○			○	○	12. 論語	・論語一八章 ・『論語』の注釈を読む	【記述の確認】解釈の分かれる文章について、古人の解釈を踏まえ、自身の考えを理由を挙げて述べる。
		1				○			○	○	学年末考査 (評価する単元:11. 物語、12. 論語)		【知技内容テスト】語句の読み書きおよび意味。書き下し文。文学史。 【思判表内容テスト】教材を読み、登場人物の心情や孔子の思想に関する問いに答える。
	備考	通信科目の授業については上記に準じます。 評価は授業時の活動、定期考査、およびレポートの提出により総合的に行います。											合計 70時間

教科	国語	科目	基礎国語	単位数	2単位	学年・科・コース等	1年次
使用教科書	伝える伝わるワーク			副教材等	なし		
科目の目標							
高校段階の学習内容に繋げるため、義務教育範囲の内容の確実な定着を目指すとともに、学習に意欲的に取り組む姿勢を培う。 (1) 基本的な国語の知識や語彙、技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】							
評価の観点の趣旨							
知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
基本的な国語の知識や語彙、技能を身に付けるようにしている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとするともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		

※**知技**=知識・技能、**言葉**=言葉の特徴や使い方に関する事項、**情報**=情報の扱い方に関する事項、**文化**=我が国の言語文化に関する事項
思判表=思考・判断・表現、**話聞**=話すこと・聞くこと、**書**=書くこと、**読**=読むこと、**態**=主体的に学習に取り組む態度

学期	月	時間数	評価の観点※						知技 教材(題材)	思判表 教材(題材)	評価方法及び言語活動		
			知技			思判表						態	
			言葉	情報	文化	話聞	書	読					
前期	4月5日	15	○						○	○	小学校範囲の漢字の読み書き 文節の関係 主語・述語の関係	思考力問題(問題の本質を見抜く)	【記述の確認】プリントやノート等の確認。 【知技内容】小テストで理解度をみる 【思判表内容】類似問題で理解度をみる
	6月1日	1	○						○	○	前期中間考査		【知技内容】漢字や文法に関するもの 【思判表内容】類似問題
	7月7日	10	○						○	○	中学校範囲の漢字の読み書き	思考力問題(逆算して考える)	【記述の確認】プリントやノート等の確認。 【知技内容】小テストで理解度をみる
	8月8日	8			○				○	○	ことわざ・慣用句・部首	読解力問題(短文)	【思判表内容】類似問題で理解度をみる
	9月1日	1	○						○	○	前期期末考査		【知技内容テスト】漢字やことわざ、部首等に関するもの 【思判表内容テスト】類似問題
後期	10月8日	8	○			○			○		中学校範囲の漢字の読み書き	思考力問題(チームビルディング等)	【記述の確認】プリントやノート等の確認。 【知技内容】小テストで理解度をみる 【思判表内容】類似問題で理解度をみるとともに、チームビルディングの実施
	11月8日	8			○				○	○	難読語・干支 月の異名	読解力問題(指示語)	
	12月1日	1	○						○	○	後期中間考査		【知技内容テスト】漢字や干支等に関するもの 【思判表内容テスト】類似問題
	1月8日	8	○						○	○	漢字総復習	思考力問題(手順を文章化する)	【記述の確認】プリントやノート等の確認。 【知技内容】小テストで理解度をみる
	2月9日	9	○						○	○	同音(訓)異義語 敬語	読解力問題(グラフ)	【思判表内容】類似問題で理解度をみるとともに、思考の過程を文章化する
	3月1日	1	○						○	○	学年末考査		【知技内容テスト】これまで学んできた漢字等 【思判表内容テスト】類似問題
備考	2時間続きの授業形態のため、1時間目を知識技能の習得、2時間目を思考力判断力表現力の習得に充てるものとする。									合計 70時間			

教科	公民	科目	公共	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	公共(実教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

人間と社会の在り方についての見方、考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目的とする。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために、必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の現実を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
定期考査, ワークシート, 行動観察	定期考査, ワークシート, 発表・話し合い	行動観察, ワークシート, 発表・話し合い, レポート(Sの科目)

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。	○	○	○	50
			・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していくこととする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。	○	○	○	
			・社会に参画する自立した主体とは、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
	5	第2章 人間としてよく生きる	・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。	○	○	○	
			・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	○	○	○	
	6	第3章 他者とともに生きる	・社会に参画する自立した主体とは、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	
			・人間は対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。	○	○	○	
	7		・自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	
		第4章 民主社会の倫理	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。	○	○	○	
			・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	

8・9	第5章 民主国家における基本原理	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。	○	○	○
		・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
10	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち	・法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成されていくことについて理解している。	○	○	○
	1 現代の民主政治と日本国憲法	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	○	○	○
	第1章 日本国憲法の基本的性格	・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	○	○	○
11	第2章 日本の政治機構と政治参加	・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	○	○	○
	2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会	・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	○	○	○
12		・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、社会保障の充実、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる課題を基に、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。	○	○	○
		・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	○	○	○
		・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。	○	○	○
1	第2章 日本経済の特質と国民生活	・資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることと個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。	○	○	○
	3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・国際法の意義と役割や領土や領海を含むものであり、国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解している。	○	○	○
2		・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	○	○	○
	第2章 国際経済の動向と課題	・国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解している。	○	○	○
	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明できる。	○	○	○
合計					105 時間

後期

55

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	最新 数学 I (数研出版)			副教材等	プリント等		

学習の目標		
(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
定期考査(知識・技能問題)	定期考査(思考問題)・発表・提出物等	教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況・振り返りシートの記述等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 数と式 第1節 数と式 1. 多項式	式についての用語の意味を理解する。また、特定の文字や式の次数への着目を通して、式について多様な見方をすることができる。単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。	○		○	50
		2. 多項式の加法・減法・乗法	多項式の加法・減法は、同類項をまとめることによってできることを理解している。指数法則を理解し、計算に用いることができる。分配法則を用いて、式を展開することができる。	○	○		
		3. 展開の公式	展開の公式を用いて、式を展開することができる。	○			
		4. 式の展開の工夫	おきかえを利用し、多項式の展開の公式に帰着させることができる。式の形の特徴に着目して掛ける順番を工夫し、計算を簡単にすることができる。	○			
		5. 因数分解	共通因数を見つけ、共通因数のくり出しができる。因数分解の公式を用いて、式を因数分解できる。展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする。	○		○	
	5	6. いろいろな因数分解	多項式を適切な形に整理したり、おきかえなどを利用したりして、因数分解の公式に帰着させることができる。複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。式の特徴に着目して複雑な式の因数分解に取り組もうとする。	○	○	○	
		第2節 実数 7. 実数 8. 根号を含む式の計算	中学校までに学習した数を分類、統合し、実数について理解する。また、絶対値の定義を数直線と関連付けて理解し、絶対値の性質について理解する。平方根の定義を理解し、根号を含む式の計算をすることができる。また、分母の有理化を理解し、分母に根号を含む基本的な分数について有理化したり計算したりすることができる。	○	○	○	
		第3節 1次不等式 9. 不等式 10. 不等式の性質	不等式の意味を理解することができる。xの値の範囲を、数直線上に図示できる。具体的な数に対して、不等式の解であるかどうかを判断できる。不等号に等号が付いているものと付いていないものの違いを考察しようとする。 不等式の性質における不等号と関連付けながら不等式の性質を考察することができる。不等式の性質を、数直線と対応させて考察できる。	○	○	○	
		11. 1次不等式の解き方	不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。不等式の性質から、1次不等式の解法を考察しようとする。	○	○	○	
		12. 連立不等式	数直線を用いて、2つの不等式の共通範囲を求めることができる。連立不等式の解を、数直線を用いて表示し、解を求めることができる。A<B<Cの形の不等式を連立不等式として解くことができる。連立不等式の解を考察しようとする。	○	○	○	
		13. 不等式の利用	身近な問題に対し、適切に変数を定め、1次不等式で表現できる。身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。	○	○	○	
		7	第2章 集合と命題 1. 集合と部分集合	集合の要素であるかどうかを判定することができる。集合を{ }を用いて表すことができる。部分集合、空集合、2つの集合の包含関係を理解している。集合をそれぞれの場合に通しで表すことができる。ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。	○	○	
	2. 共通部分、和集合、補集合		共通部分、和集合、補集合を求めることができる。ド・モルガンの法則に関心をもち、考察しようとする。	○		○	
	3. 命題と集合		命題や条件の意味を理解している。命題の真偽を、集合や反例などを用いて判定することができる。必要条件、十分条件の意味を理解している。条件の否定を理解し、否定を述べることができる。ド・モルガンの法則を理解しており、「かつ」「または」の否定を述べることができる。命題とその対偶の真偽が一致することを理解している。条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。	○	○	○	
	9	4. 命題と証明	対偶や背理法を用いて証明することができる。直接証明するのが難しい命題については、対偶や背理法の利用を考え、証明することができる。直接証明法では難しい命題も、対偶や背理法を用いれば証明できることに興味・関心をもち、考察しようとする。	○	○	○	
		第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数	xの関数yが与えられたとき、xの値に対するyの値を求めることができる。y=f(x)やf(x)の表記を理解しており、関数の値f(a)を求めることができる。身近な問題を、関数の式で表すことができる。日常生活に見られる具体例から関数を見つけようとする。	○	○	○	
		2. 関数とグラフ	座標平面について理解し、関数のグラフがかけられる。1次関数と直線について、2次関数の式が2次式で表されることについて理解している。関数を表、式、グラフによって考察することができる。そのグラフをかこうとする。	○	○	○	
		3. y=ax ² のグラフ	2次関数y=ax ² のグラフの頂点、軸について理解している。放物線のもつ性質に興味・関心を示し、調べようとする。	○		○	
		4. y=ax ² +qのグラフ	2次関数y=ax ² +qのグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをy軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=ax ² +qのグラフの特徴を考察することができる。	○	○		
		5. y=a(x-p) ² のグラフ	2次関数y=a(x-p) ² のグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをx軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=a(x-p) ² のグラフの特徴を考察することができる。	○	○		
		6. y=a(x-p) ² +qのグラフ	2次関数y=a(x-p) ² +qのグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをx軸方向、y軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=a(x-p) ² +qのグラフの特徴を考察することができる。	○	○		
7. y=ax ² +bx+cのグラフ		y=ax ² +bx+cのグラフをかぐためには、y=a(x-p) ² +qの形に変形する必要があることを理解している。平行移動は、頂点の移動を考察すればよいことを理解している。一般の2次関数について、頂点の座標を考察しようとする。	○	○	○		

後期	10	8. 2次関数の最大・最小	2次関数の最大値, 最小値を求めることができる。定義域が限られた場合においても求めることができる。また, グラフを使って, 理解しようとする。身近な問題を, 2次関数の最大・最小の考えを活用して解決しようとする。	○	○	○	
		9. 2次関数の決定	与えられた条件を関数の式に表現し, 2次関数を決定することができる。2次関数の決定において, 適した2次関数の式の形を使うことができる。また, 決定条件に興味, 関心をもち, 考察しようとする。	○	○	○	
	11	10. 2次方程式	2次方程式は, 因数分解による解法が難しい場合に, 解の公式を利用すれば, 解を求めることを理解している。2次方程式の解の個数と解の種類を判別式の符号から求めることができる。実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。2次方程式がどんな場合でも解けるように, 解の公式を得て, それを積極的に利用しようとする。	○	○	○	
		11. 2次関数のグラフとx軸の共有点	2次関数のグラフと, 2次方程式の関係を理解している。2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を, Dの値から考察できる。2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ, その意味を探ろうとする。	○	○	○	
		12. 2次不等式	2次関数のグラフを利用して, 2次不等式を解く方法を理解し, 2次不等式を解くことができる。関数のグラフ, 方程式, 不等式を関連づけて考えることができる。1次関数のグラフと1次不等式の関係から, 2次不等式の場合を考えようとする。	○	○	○	
	12	13. 2次不等式の利用	身近な問題を, 2次不等式を用いて解決しようとする。			○	
		第4章 図形と計量					
		第1節 三角比					
		1. 鋭角の三角比		三角比は, 直角三角形の辺の比であることを理解し, $\sin\theta$, $\cos\theta$, $\tan\theta$ の値を求めることができる。三角比の表を用いて, 三角比の値や角を調べることができる。三角比の値が角の大きさによって定まることを理解している。	○	○	○
		2. 三角比の利用		三角比を使って, 距離や高さを求めることができる。直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし, 具体的な事象を三角比の問題として見ることがができる。	○	○	○
	12	3. 三角比の相互関係		三角比の相互関係を用いて, 三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。 $90^\circ - A$ の三角比の公式を利用できる。三角比の相互関係を調べようとする。	○	○	○
		4. 三角比の拡張		座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解し, 三角比の値を求めることができる。鈍角も含めて三角比の相互関係を用いて, 三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。 $180^\circ - \theta$ の公式を利用できる。三角比の相互関係が鈍角のときも成り立つことを調べようとする。	○	○	○
		5. 三角比が与えられたときの角		座標を用いて, θ の三角比の値から θ を求めることができる。直線の傾きと正接の関係を考察することができる。 θ の三角比が与えられたときに θ を求める際, 図を積極的に利用しようとする。	○	○	○
	1	6. 正弦定理		正弦定理における $A=B=C=D$ の関係式を適切に処理できる。正弦定理を用いて三角形の外接円の半径や辺の長さを求めることができる。正弦定理の図形的意味を考察する。	○	○	○
		7. 余弦定理		余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。余弦定理の図形的意味を考察する。	○	○	○
		8. 三角形の面積		2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。3辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができる。三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	○	○	○
		9. 図形の計量		四角形を対角線で2つの三角形に分割して, 面積を求めることができる。正弦定理や余弦定理を用いて, 測量問題が解決できる。日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	○	○	○
	2	第5章 データの分析					
		1. データの整理		度数分布表について理解し, 度数分布表からデータの特徴を読み取ることができる。度数分布表に整理し, ヒストグラムで表すことができる。データを整理して全体の傾向を考察しようとする。	○	○	○
		2. データの代表値		平均値や最頻値, 中央値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。データの分布の仕方によっては, 代表値として平均値を用いることが必ずしも適切ではないことを理解している。身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。	○	○	○
3. データの散らばり		範囲, 四分位数, 偏差, 分散, 標準偏差の定義とその意味を理解している。分散, 標準偏差を公式を用いて求めることができる。箱ひげ図をかき, データの分布を比較することができる。データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	○	○	○		
4. データの相関		散布図, 相関表を作成し, 2つの変量の間の相関を考察することができる。相関と因果関係について, 興味・関心をもつ。	○	○	○		
5. 相関係数		相関係数の定義とその意味を理解し, 定義に従ってそれを求めることができる。相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること, 数値化して扱うことよきを理解している。相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。	○	○	○		
6. 分割表		分割表の意味を理解し, 数値の割合を計算して新たな表を作成することができる。問題の解決や改善を図るために, 現状のデータの分布を望ましいと考える方向に変えるための条件や改善策を, コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして探ろうとする。	○	○	○		
7. 仮説検定の考え方		仮説検定の考え方を理解し, 具体的な事象に当てはめて考えることができる。不確実な事象の起こりやすさに着目し, 実験などを通して, 問題の結論について判断したり, その妥当性について批判的に考察したりすることができる。身近な事柄において, 仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。	○	○	○		

通信科目の授業については上記に準じるとともに, レポートの提出と成績が重要となる。

合計 105

時間

教科	数学	科目	基礎数学	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	最新 数学 I (数研出版)			副教材等	プリント等		

学習の目標		
(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
定期考査(知識・技能問題)	定期考査(思考問題)・発表・提出物等	教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況・振り返りシートの記述等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	第1章 数と式 第1節 数と式 1. 多項式	式についての用語の意味を理解する。また、特定の文字や式の次数への着目を通して、式について多様な見方をすることができる。単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。	○		○	35
		2. 多項式の加法・減法・乗法	多項式の加法・減法は、同類項をまとめることによって理解している。指数法則を理解し、計算に用いることができる。分配法則を用いて、式を展開することができる。	○	○		
		3. 展開の公式	展開の公式を用いて、式を展開することができる。	○			
	5	4. 式の展開の工夫	おきかえを利用し、多項式の展開の公式に帰着させることができる。式の形の特徴に着目して掛ける順番を工夫し、計算を簡単にすることができる。	○			
		5. 因数分解	共通因数をみつけ、共通因数のくり出しができる。因数分解の公式を用いて、式を因数分解できる。展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする。	○		○	
		6. いろいろな因数分解	多項式を適切な形に整理したり、おきかえなどを利用したりして、因数分解の公式に帰着させることができる。複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。式の特徴に着目して複雑な式の因数分解に取り組もうとする。	○	○	○	
		第2節 実数 7. 実数	中学校までに学習した数を分類、統合し、実数について理解する。また、絶対値の定義を数直線と関連付けて理解し、絶対値の性質について理解する。平方根の定義を理解し、根号を含む式の計算をすることができる。また、分母の有理化を理解し、分母に根号を含む基本的な分数について有理化したり計算したりすることができる。	○	○	○	
		8. 根号を含む式の計算	不等式の意味を理解することができる。xの値の範囲を、数直線上に図示できる。具体的な数に対して、不等式の解であるかどうかを判断できる。不等号に等号が付いているものと付いていないものの違いを考察しようとする。	○	○	○	
		9. 不等式の性質	不等式の性質における不等号と関連付けながら不等式の性質を考察することができる。不等式の性質を、数直線と対応させて考察できる。	○	○		
	6	10. 不等式の性質	不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。不等式の性質から、1次不等式の解法を考察しようとする。	○		○	
		11. 1次不等式の解き方	数直線を用いて、2つの不等式の共通範囲を求めることができる。連立不等式の解を、数直線を用いて表示し、解を求めることができる。A<B<Cの形の不等式を連立不等式として解くことができる。連立不等式の解を考察しようとする。	○		○	
		12. 連立不等式	身近な問題に対し、適切に変数を定め、1次不等式で表現できる。身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。	○	○	○	
	7	13. 不等式の利用	集合の要素であるかどうかを判定することができる。集合を{}を用いて表すことができる。部分集合、空集合、2つの集合の包含関係を理解している。集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。	○	○	○	
		第2章 集合と命題 1. 集合と部分集合	共通部分、和集合、補集合を求めることができる。ド・モルガンの法則に関心をもち、考察しようとする。	○	○	○	
		2. 共通部分、和集合、補集合	命題や条件の意味を理解している。命題の真偽を、集合や反例などを用いて判定することができる。必要条件、十分条件の意味を理解している。条件の否定を理解し、否定を述べることができる。ド・モルガンの法則を理解しており、「かつ」「または」の否定を述べることができる。命題とその対偶の真偽が一致することを理解している。条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。	○	○	○	
	8	3. 命題と集合	対偶や背理法を用いて証明することができる。直接証明するのが難しい命題については、対偶や背理法の利用を考え、証明することができる。直接証明法では難しい命題も、対偶や背理法を用いれば証明することに興味・関心をもち、	○	○	○	
		4. 命題と証明	xの関数yが与えられたとき、xの値に対するyの値を求めることができる。y=f(x)やf(x)の表記を理解しており、関数の値f(a)を求めることができる。身近な問題を、関数の式で表すことができる。日常生活に見られる具体例から関数を見つけようとする。	○	○	○	
		第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数	座標平面について理解し、関数のグラフがかけられる。1次関数と直線について、2次関数の式が2次式で表されることについて理解している。関数を表、式、グラフによって考察することができ、そのグラフをかこうとする。	○	○	○	
9	2. 関数とグラフ	2次関数y=ax ² のグラフの頂点、軸について理解している。放物線のもつ性質に興味・関心を示し、調べようとする。	○		○		
	3. y=ax ² のグラフ	2次関数y=ax ² +qのグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをy軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=ax ² +qのグラフの特徴を考察することができる。	○	○			
	4. y=ax ² +qのグラフ	2次関数y=a(x-p) ² のグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをx軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=a(x-p) ² のグラフの特徴を考察することができる。	○	○	○		
	5. y=a(x-p) ² のグラフ	2次関数y=a(x-p) ² +qのグラフの頂点、軸について理解し、放物線をかき、それをx軸方向、y軸方向に平行移動させることができる。2次関数y=a(x-p) ² +qのグラフの特徴を考察することができる。	○	○	○		
	6. y=a(x-p) ² +qのグラフ	y=ax ² +bx+cのグラフをかき、y=a(x-p) ² +qの形に変形する必要があることを理解している。平行移動は、頂点の移動を考察すればよいことを理解している。一般の2次関数について、頂点の座標を考察しようとする。	○	○	○		
	7. y=ax ² +bx+cのグラフ		○	○	○		

後期	10	8. 2次関数の最大・最小	2次関数の最大値, 最小値を求めることができる。定義域が限られた場合においても求めることができる。また, グラフを使って, 理解しようとする。身近な問題を, 2次関数の最大・最小の考えを活用して解決しようとする。	○	○	○	
		9. 2次関数の決定	与えられた条件を関数の式に表現し, 2次関数を決定することができる。2次関数の決定において, 適した2次関数の式の形を使うことができる。また, 決定条件に興味, 関心をもち, 考察しようとする。	○	○	○	
		10. 2次方程式	2次方程式は, 因数分解による解法が難しい場合に, 解の公式を利用すれば, 解を求めることを理解している。2次方程式の解の個数と解の種類を判別式の符号から求めることができる。実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。2次方程式がどんな場合でも解けるように, 解の公式を得て, それを積極的に利用しようとする。	○	○	○	
	11	11. 2次関数のグラフとx軸の共有点	2次関数のグラフと, 2次方程式の関係を理解している。2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を, Dの値から考察できる。2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ, その意味を探ろうとする。	○	○	○	
		12. 2次不等式	2次関数のグラフを利用して, 2次不等式を解く方法を理解し, 2次不等式を解くことができる。関数のグラフ, 方程式, 不等式を関連づけて考えることができる。1次関数のグラフと1次不等式の関係から, 2次不等式の場合を考えようとする。	○	○	○	
		13. 2次不等式の利用	身近な問題を, 2次不等式を用いて解決しようとする。			○	
	12	第4章 図形と計量					
		第1節 三角比					
		1. 鋭角の三角比	三角比は, 直角三角形の辺の比であることを理解し, $\sin A$, $\cos A$, $\tan A$ の値を求めることができる。三角比の表を用いて, 三角比の値や角を調べることができる。三角比の値が角の大きさによって定まることを理解している。	○	○	○	
		2. 三角比の利用	三角比を使って, 距離や高さを求めることができる。直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし, 具体的な事象を三角比の問題として見ることがができる。	○	○	○	
		3. 三角比の相互関係	三角比の相互関係を用いて, 三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。 $90^\circ - A$ の三角比の公式を利用できる。三角比の相互関係を調べようとする。	○	○	○	
	1	4. 三角比の拡張	座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解し, 三角比の値を求めることができる。鈍角も含めて三角比の相互関係を用いて, 三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。 $180^\circ - \theta$ の公式を利用できる。三角比の相互関係が鈍角のときも成り立つことを調べようとする。	○	○	○	
		5. 三角比が与えられたときの角	座標を用いて, θ の三角比の値から θ を求めることができる。直線の傾きと正接の関係を考察することができる。 θ の三角比が与えられたときに θ を求める際, 図を積極的に利用しようとする。	○	○	○	
		6. 正弦定理	正弦定理における $A=B=C=D$ の関係式を適切に処理できる。正弦定理を用いて三角形の外接円の半径や辺の長さを求めることができる。正弦定理の図形的意味を考察する。	○	○	○	
	1	7. 余弦定理	余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。余弦定理の図形的意味を考察する。	○	○	○	
		8. 三角形の面積	2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。3辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができる。三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	○	○	○	
		9. 図形の計量	四角形を対角線で2つの三角形に分割して, 面積を求めることができる。正弦定理や余弦定理を用いて, 測量問題が解決できる。日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	○	○	○	
	2	第5章 データの分析					
		1. データの整理	度数分布表について理解し, 度数分布表からデータの特徴を読み取ることができる。度数分布表に整理し, ヒストグラムで表すことができる。データを整理して全体の傾向を考察しようとする。	○	○	○	
		2. データの代表値	平均値や最頻値, 中央値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。データの分布の仕方によっては, 代表値として平均値を用いることが必ずしも適切ではないことを理解している。身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。	○	○	○	
3. データの散らばり		範囲, 四分位数, 偏差, 分散, 標準偏差の定義とその意味を理解している。分散, 標準偏差を公式を用いて求めることができる。箱ひげ図をかき, データの分布を比較することができる。データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	○	○	○		
4. データの相関		散布図, 相関表を作成し, 2つの変量の間の相関を考察することができる。相関と因果関係について, 興味・関心をもつ。	○	○	○		
5. 相関係数		相関係数の定義とその意味を理解し, 定義に従ってそれを求めることができる。相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること, 数値化して扱うことよきを理解している。相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。	○	○	○		
6. 分割表		分割表の意味を理解し, 数値の割合を計算して新たな表を作成することができる。問題の解決や改善を図るために, 現状のデータの分布を望ましいと考える方向に変えるための条件や改善策を, コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして探ろうとする。	○	○	○		
7. 仮説検定の考え方	仮説検定の考え方を理解し, 具体的な事象に当てはめて考えることができる。不確実な事象の起こりやすさに着目し, 実験などを通して, 問題の結論について判断したり, その妥当性について批判的に考察したりすることができる。身近な事柄において, 仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。	○	○	○			
合計				70			
					時間		

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	科学と人間生活(実教出版)			副教材等	プリント など		

学習の目標		
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことで理解を深め、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な基本となる資質・能力を育成する。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したりすることにより、それを表現することができる。	自然の事物・現象について科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。
定期考査・小テスト・ワークシート等	定期考査(思考問題)・実験プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等

※通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	1章 科学技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解すること。			○	35
		2章 物質の科学	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。			○	
	5	1節 材料とその再利用	身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途で資源の再利用について理解すること。		○		
		1. 生活の中のさまざまな物質					
		2. 金属					
	6	3. プラスチック	身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について理解すること。		○		
4. セラミック							
2節 食品と衣料	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。				○		
7	1. 衣食にかかわるさまざまな物質	植物の生育、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて理解すること。					
	2. 食品にかかわる物質						
	3. 衣料にかかわる物質						
8・9	3章 生命の科学	様々な微生物の存在と生態系での働き、微生物と人間生活とのかかわりについて理解すること。		○			
	1節 ヒトの生命現象						
	1. 私たちの生活環境と眼						
8・9	2. ヒトの生命活動と健康の維持						
	3. ヒトの生命現象とDNA						
2節 微生物とその利用							
1. 微生物と発酵							

後 期	10	2. 微生物の利用 3. 生態系での微生物	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	11	4章 光や熱の科学 1節 熱の性質とその利用	熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解すること。			<input type="checkbox"/>
		1. 熱 2. 熱の発生 3. エネルギーの変換と利用		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	12	2節 光の性質とその利用	光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解すること。			<input type="checkbox"/>
		1. 光 2. 電磁波の利用		<input type="checkbox"/>		
	1	5章 宇宙や地球の科学 1節 太陽と地球	※1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1. 太陽系の天体と人間生活 2. 潮汐と人間生活 3. 太陽と放射エネルギー		太陽や月などの身近に見られる天体と人間生活とのかかわりに、太陽系における地球について理解すること。太陽・月・地球の位置関係や地球の自転が潮汐にかかわっていることを理解すること。			<input type="checkbox"/>	
2	2節 身近な自然景観と自然災害	身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解すること。		<input type="checkbox"/>		
	1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー 3. 自然の恵みと自然災害		<input type="checkbox"/>			
	6章 こらからの科学と人間生活	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について学習を踏まえて、そのかかわり方について考える。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
合計						35
時間						70

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	All Aboard! English Communication I (東京書籍)		副教材等	なし			

学習の目標

- 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、
- ・必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
 - ・必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
 - ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
 - ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
 - ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

評価規準(評価の観点及び趣旨)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学期	月	記録に残す評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	S I	S P	W			
前期	4月 5月 6月						Warm-up 1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベット ・教室で使う表現 ・辞書の使い方/疑問詞 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。 ・授業でよく使われる英語表現を理解し、使ってみる。 ・疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。
				○			Pre-Lesson 1 My name is Ito Neko	・be 動詞	【やりとり】名前・性格・特徴などについて自己紹介する。
				○			Pre-Lesson 2 I like Junk Food	・一般動詞	【やりとり】自己紹介に日常の行動や好みを付け加える。
				○			Lesson 1 Breakfast around the World	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の朝食を紹介するスピーチ ・過去形 	【やりとり】好きな食べ物について質問し合う。
			○	○	○		前期中間考査 (Pre-Lesson 1、Pre-Lesson 2、Lesson 1)		<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W)
	7月 8月 9月					○	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの野生動物クオッカと観光のルール ・進行形: <be 動詞+動詞の-ing 形> 	【発表】好きな動物について、理由とともに伝える。
						○	Lesson 3 A Train Driver In Sanriku	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地を運行する列車運転士のスピーチ ・助動詞: can, will 	【書く】ある場所への行き方とそこでできることについて調べ、説明を書く。
						○	Lesson 4 A Miracle Mirror	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の観光地について書かれたメール ・to 不定詞: <to+動詞の原形> 	【書く】行ってみたい場所と理由を伝える。
			○	○		○	前期末考査 (Lesson 2、Lesson 3、Lesson 4)		<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W)

学 期	月	記録に残す 評価の領域					単元	題材内容	評価方法及び内容
		L	R	S I	S P	W			
後 期	10月 11月 12月			○			Lesson5 Learning from the Sea	・長浜高校水族館部のユニークな部活動について ・動名詞:〈動詞の-ing形〉	【やりとり】将来の夢について述べる。
					○		Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period	・江戸時代の浮世絵師, 歌川国芳についてのスピーチ ・受け身:〈be 動詞+過去分詞〉	【発表】自分の好きな絵についてのスピーチをする。
						○	Lesson7 A Diary of Hope	・アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業 ・比較表現:〈-er〉〈the -est〉〈as+原級+as〉	【書く】関心のある人物について調べ、書く。
		○	○		○	○	後期中間考査 (Lesson5、Lesson6、Lesson7)		・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W)
	12月 1月 2月				○		Lesson8 A Door to a New Life	・ロボットカフェを紹介する実況中継 ・現在完了形:〈have[has]+過去分詞〉	【発表】人の生活を豊かにするロボットについて考え、提案する。
						○	Lesson9 Fighting Plastic Pollution	・プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動 ・名詞を後ろから説明する分詞	【書く】プラスチックごみ問題についてできることを考え、書く。
				○			Lesson10 Pigs from across the Sea	・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、現在の交流 ・関係代名詞:who, which	【やりとり】海外の文化や社会に対する理解を深める活動について述べる。
		○	○		○	○	後期期末考査 (Lesson8、Lesson9、Lesson10)		・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W)
							合計		105 時間

教科	外国語	科目	基礎英語	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	All Aboard! English Communication I (東京書籍)		副教材等	All Aboard! English communication I BRIDGE WORKBOOK			

学習の目標
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、の言語活動及びこれら結び付けた総合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。</p>

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
評価方法		
<p>○定期考査</p> <p>○パフォーマンステスト</p> <p>○確認テスト</p>	<p>○定期考査</p> <p>○発表、ペア(グループ)ワーク</p> <p>○パフォーマンステスト</p>	<p>○教師による行動観察</p> <p>○振り返りシートの記述</p> <p>○ノートの記述</p>

年間指導計画

月	単元	題材内容	配当時間
4	Warm-Up	アルファベット・辞書の使い方・疑問詞	18
5	Pre-Lesson 1	Be 動詞	
6	Pre-Lesson 2	一般動詞・英文のしくみ(語順・文型)	
	Lesson 1	過去形	
	Lesson 2	進行形	
	Lesson 3	助動詞	
前期中間考査			
7	Lesson 4	to 不定詞	16
8	Lesson 5	動名詞	
9	前期期末考査		
10	Lesson 6	受け身	20
	Lesson 7	比較表現	
11	Lesson 8	現在完了形	
後期中間考査			
12	Lesson 9	分詞	16
1	Lesson 10	関係代名詞	
2	後期期末考査		
合計			70

教科	保健・体育	科目	保健	単位数	1単位	学年	1年次
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			副教材等	現代保健体育ノート		

学習の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付ける。 ・健康について考え、合理的、計画的な解決に向けて取り組み、目的や状況に応じて伝える力を身に付ける。 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進を支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を目指す。 		

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・各種の指標や疾病構造の変化を通して健康を保持増進するための課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康や疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が深く関わっていることについて、理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見・理解している。 ・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて簡単に説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について各単元で健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・保健ノート取り組み ・課題プリント 	定期考査(思考問題) <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート・振り返りシート・発表・話し合い ・活動・質問等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度や姿勢・教科書・ノート ・筆記用具の準備 ・ノート、レポートの記述・各種提出物(総合的な取り組み状況等)

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当	
		章・節		(1)	(2)	(3)		
前期	4	オリエンテーション	学習内容の概要、評価基準等。				18	
		健康の考え方と成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな健康の考え方。 ・健康を成り立たせている要因等について理解する。 					
		生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の健康水準の変化とその背景。 ・わが国の現在の健康問題等について理解する。 					
	5	生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の種類と要因。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防等について理解する。 		○	○		○
		がんの原因と予防	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの種類や原因。 ・がんの一次予防と二次予防。 					
		がんの治療と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・がんのおもな治療法や緩和とケア。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策等について理解する。 					
	6	運動と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と運動の関係。 ・目的に応じた健康的な運動のしかた。 					
		食事と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食事と健康の関係。 ・健康的な食事のとり方等について理解する。 		○	○		○
		休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方。 ・健康と睡眠の関係及び健康により睡眠のとり方等について理解する。 					
	7	喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙者やその周囲の人に起こる害。 ・喫煙対策。 					
飲酒と健康		<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策等について理解する。 		○	○	○		
8・9	薬物乱用と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例等について理解する。 						

後期	10	精神疾患の特徴	・精神疾患を予防する方法。 ・精神疾患の早期発見等について理解する。				
		精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法。 ・精神疾患の早期発見等について理解する。	○	○	○	
		精神疾患からの回復	・精神疾患の治療。 ・精神疾患の適切な治療や回復のために必要な社会環境等について理解する。				
	11	感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則。 ・感染症、個人と社会の対策等について理解する。				
		性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症。 ・性感染症・エイズの予防とその対策等について理解する。	○	○	○	
	12	健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫等について理解する。	○	○	○	
		健康に関する環境	・健康を保持増進するための環境。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり等について理解する。				
	1	事故の現状と発生要因	・事故とその被害 ・事故の発生に関する要因等について理解する。				
		安全な社会の形成	・自他の安全を確保する行動 ・安全を確保する社会の取り組み等について理解する。	○	○	○	
		交通における安全	・交通事故防止のための取り組み ・交通事故と運転者の責任等について理解する。				
	2	応急手当の意義と基本	・応急手当の意義 ・応急手当の手順等について理解する。				
		日常的な応急手当	・けがに応じた応急手当 ・熱中症の応急手当等について理解する。	○	○	○	
		心肺蘇生法	・心肺蘇生法の意義と蘇生法について理解する。				
					合計	35	
						時間	

17

教科	保健・体育	科目	体育	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
<p>・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解する。</p> <p>・運動を継続するために課題を発見し、解決に向けて思考・判断するとともに、自他の考えたことを伝えることができる。</p> <p>・競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・個の多様性を理解し、これらを大切に考え運動を楽しむ態度を身に付ける。</p>		

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的・計画的な実践に関する具体的な知識を身に付けている。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。また、健康や安全について必要な知識を身に付けている。	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。また、個人及び社会生活における健康課題を発見しその解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。運動の合理的・計画的実践に主体的に取り組むことができる。また、健康を優先し、自他の健康と保持増進に取り組む健康な社会づくりに主体的に取り組もうとしている。
基礎体力、スポーツテスト、運動技能、運動の基礎。ゲームやゲーム運営、審判等総合鉄器な取り組み。	スポーツスキル、健康管理、安全管理、グループ活動等総合的な取り組み。	出席の状況。授業への取り組み、態度、マナー、提出物。道具や施設の使い方準備や片付け等総合的な取り組み。

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	オリエンテーション	評価方法 水泳 持久走 球技 体力づくり等 取り組みの内容等の説明				1
		体育理論	【体育理論】 運動やスポーツの合理的・計画的な実践を通して、知識や技能を深め、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたって豊かに実践できるようにするため、スポーツはどのような発展や変化をしてきたのか、どのような役割を果たしているのかといったスポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解できる。	○	○	○	6
	5	体づくり	【体づくり運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の学習に主体的に取り組む、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。	○	○	○	7
		球技 (バドミントン、サッカー卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	18
	7	水泳 (平泳ぎ、クロール背泳 バタフライ等)	【水泳】前期 水泳の学習に主体的に取り組む、ルールやマナーを大切に。健康や安全を確保するとともに、体の動きや呼吸のバランスを体験しながら自己の能力や課題に適した運動を継続することができ、また記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わうことができる。 体力に応じて複数の泳法を身に付けることができる。	○	○	○	8
		8・9					

後期	10	球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】後期 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	10
	11	陸上 持久走	【陸上競技】後期 記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わい、陸上競技の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることができる。健康や安全を確保するとともに、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。	○	○	○	10
	12						
	1	球技 (バドミントン、サッカー、卓球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール等)	【球技】後期 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。	○	○	○	10
	2						
合計							70 時間

教科	保健体育	科目	スポーツ講座	単位数	1単位	学年	1年次
使用教科書	オリンピック・パラリンピック学習読本(高等学校編)			副教材等	なし		

学習の目標

スポーツの基本的な知識や意義について学ばせ、わが国及び世界各国に愛好されるスポーツの簡単なルール。や戦術を理解させることにより、スポーツへの関心を高めるとともにスポーツに親しむ態度を養う。また、軽スポーツからプロスポーツ、パラスポーツなどについて理解を深め、様々なスポーツへの関心を高め、健康の保持増進に役立つ考え方を身に付けさせる。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<p>ラススポーツや軽スポーツ・プロスポーツに関する具体的な知識やゲーム展開を理解している。ルールや戦術を理解して観戦を楽しむことができる。活動する際の健康や安全について必要な知識を身に付けている。</p>	<p>自己や仲間の課題に応じた取り組み方法や勝ち負け以外の楽しみ方を考えて実践できる。それら表現している。また、課題を発見しその解決を目指して総合的に考え、判断し、それら表現したり発表したりできる。</p>	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。運動の合理的、計画的実践に必要な準備や実践に主体的に取り組むことができる。また、自他の体調を把握し健康の保持増進に主体的に取り組もうとしている。</p>
課題学習やレポート	レポートや発表、グループ協議	健康管理、態度・マナー、レポートづくり、提出物

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
		章・節		(1)	(2)	(3)		
前期	4	スポーツって何?	スポーツの歴史、文化や意義について理解させる。	○	○	○	12	
		スポーツの歴史と文化	運動・スポーツのメリットとデメリットについて理解させる。	○	○	○		
	5	スポーツへの関わり①	オリンピックや世界選手権、日本選手権、インターハイで活躍している選手とその取り組みを知ることにより心の変化や挫折と成長を繰り返していることを知る。	○	○	○		
		スポーツ調べ①	タブレットで自分が興味のあるスポーツの始まりや文化、及びルールや戦術を調べ、発表することによりスポーツの楽しみ方を広げさせる。	○	○	○		
	7	スポーツ調べ・①発表	自分の好きなスポーツの魅力や文化の情報を発信し、お互いが他のスポーツの良さや楽しさを理解しあう。	○	○	○		
		世界のスポーツ	世界各国のスポーツの歴史や人気スポーツ・スポーツの現在の状況について理解させる。	○	○	○		
	8・9							3

後期	10	スポーツへの関わり②	スポーツの技術と戦略について学習させ上達過程と練習方法、動きのメカニズムについて理解を深めさせる。	○	○	○	
			スポーツと経済・ドーピングとスポーツ倫理、運動が脳に及ぼす影響について知り深い知識を得させる。	○	○	○	
	11	スポーツ調べ②	スポーツへの関わり②で学習した事をもとに興味・関心がある部分をより深く調べ、新たな発見や理解につなげる。	○	○	○	
		スポーツ調べ②発表	お互いが調べたことを発表することによりいろいろな角度から物事を見ることの大切さや新たな知識・情報を知る。	○	○	○	
	12	スポーツへの関わり③	スポーツにおける技能と体力の関係やトレーニング方法について知り安全に実施することを理解させる。	○	○	○	
			生涯スポーツの考え方や、スポーツにかかわる職業やニュース、ライフスタイルに応じたスポーツについて考えさせスポーツや運動を生活の中うまく位置付けることを理解させる。	○	○	○	
	1	スポーツ調べ③	スポーツへの関わり③で学習した事をもとに興味・関心がある部分をより深く調べ、新たな発見や理解につなげる。	○	○	○	
		スポーツ調べ③発表	お互いが調べたことを発表することによりいろいろな角度から物事を見ることの大切さや新たな知識・情報を知る。	○	○	○	
	2	まとめ・発表	今まで学んできた様々な角度からのスポーツの中で特に興味・関心を持った分野や共感した分野をまとめて発表する。	○	○	○	
					合計	35	時間

教科	芸術 I	科目	音楽 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	「ON!」(音楽之友社)			副教材等	プリント		

学習の目標	
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。	

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などに関わり、及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけようとしている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとする態度を養う。
活動状況 ワークシート 筆記テスト	活動状況 実技テスト ワークシート 振り返りシート	活動状況 提出物 総合的な取り組み

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	みんなで歌おう	シンコーペーションの表現を身につけ、歌うことの楽しさを感じる。 “翼をください” “少年時代” など			○	5 5
		五線譜を見てみよう	楽譜の読み方などを学び、音楽表現の基礎・基本を身につける。	○		○	
	5	リズム	楽譜の読み方などを学び、音楽表現の基礎・基本を身につける。	○		○	
		メロディー		○		○	
	6	歌い継ぎたい愛唱歌	唱歌の詩の意味を理解し、詩とメロディー・リズムの関連を考え歌唱する。 “花の街” “夏の思い出” “里の秋” など	○	○	○	
		世界の心	楽曲の背景と曲想との関りを理解し、声の表現を工夫する。 “オーソレ ミオ” “アニーローリー” “おおシャンゼリゼ” など	○	○	○	
	7	ミュージカル	総合芸術であるミュージカルの特徴を理解し、劇や物語と音楽との関りを意識した表現の工夫や、鑑賞をする。 “A Whole New World” “すべての山に登れ”	○	○	○	
	8・9	ギターを弾こう	ギターの楽譜が読めるようになり、クラシックギターを用いてメロディーの基本的な演奏方法ができるようになる。	○		○	
10	アンサンブル			身体を使ったリズムによる音楽(ポディー・パーカッション)を通じて楽譜を読む力を身につけ、拍子や音量の強弱、音の質に注目する。	○	○	○

後期	11	鑑賞〈西洋音楽〉	西洋音楽の表現形態の特徴を理解する。 音楽のよさや美しさ、音楽を聴いて感じたことを自分の言葉で書くことにより、自己表現力を身につける。 “交響曲 管弦楽曲 協奏曲 室内楽曲 独奏曲 歌曲 合唱曲 オペラ”	○	○	50
	12					
	1	日本の歌	日本の芸術歌曲を歌唱し、“言葉と音楽”の関連について考え、理解を深める。また、音楽用語の意味をどのように歌唱するか、表現の工夫をする。 “この道”“小さな空”	○	○	
	2					
合計					105	時間

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	高校生の美術 I (日本文教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。
ワークシート 実習・実技の状況 行動観察	ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動	行動観察 実習・実技の状況 ワークシート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	オリエンテーション	美術を学ぶ目的とともに、作品や課題の提出の仕方、評価方法について理解する			○	1	
		立方体のデッサン	鉛筆でハッチングとトーンを練習し、明暗の表現を理解する	○				15
			画用紙でデッサンモチーフの立方体を組み立て、はさみの使い方、ペーパークラフトの基礎を学ぶ	○	○			
	透視図法や遠近感の出し方を理解する		○					
	面の表現や立体感の出し方を理解する		○					
	よく観察し、狙ったトーンやハッチングが的確に表現できるよう、練習や工夫を繰り返して完成度を高めることができる			○	○			
	合評により、ほかの生徒作品と見比べることでメタ認知を意識することができる			○	○			
	7	驚きのある形	色彩理論を理解し、作品の表現に応用することができる	○	○		24	
			美の構成要素を学び、作品の画面構成に応用することができる	○	○			
			開くと絵が3段階に変化するカードをトータルカラー(色紙)でデザインし、デザインの持つメッセージ性を理解する		○			
	8・9		デザインを考える中で、他者の視点に立って考えることの大切さに気付くことができる		○	○		
			トータルカラー(デザイン折り紙)を切り貼りして模様を作ることで、デフォルメなどの抽象化を体験する		○			
仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる				○	○			

後期	10	読書感想画制作	モダンテクニックを学んで創造的な表現に生かすことができる	○	○	
			ブレインストーミングで想像力を働かせ、作品の発想に生かすことができる		○	○
			発想をアイデアスケッチにまとめて、下描きに応用することができる		○	
	11		アクリル絵の具の彩色方法を学び、作風に合った表現を選び取って描写することができる	○	○	
			仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる		○	○
	12		版画の理論を学び、凹版の仕組みを理解することができる	○		
			題材に合った主題を選び、線描や点描のモノクロ表現を生かして描画することができる		○	○
			ニードルで版に線描写する際に、力を加減して強弱をつけることができる	○		
	1	ドライポイント版画	デッサンで学んだ遠近・立体表現を生かした描写ができる		○	
			刷りの技法を理解することができる	○		
			インクのふき取り方で刷りに変化をつけて自己の表現を見つけることができる	○	○	
	2		仕上がった作品の解説や見どころをまとめたカードを制作して、互いに鑑賞し合うことで反省点や他者の発想のよさに気付くことができる		○	○
1年間の制作を通して学んだことを文章でまとめて表現することができる				○	○	
合計						105
						時間

教科	芸術	科目	工芸 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	工芸 I (日本文教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。
ワークシート 実習・実技の状況 行動観察	ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動	行動観察 実習・実技の状況 ワークシート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	工芸の学び方 ・オリエンテーション	工芸 I を学ぶ目的と、作品や課題の提出の仕方、評価方法についてを理解する			○	1
			生活の中で使用するかごの用途に合わせたデザインを考えることができる		○	○	
			制作に必要な材料取りができる	○	○		
	5	籐かご制作	米字組を用いた制作技法を理解し、底を編むことができる	○	○		35
			技法を理解し、側面を計画した角度に立ち上げて編むことができる	○		○	
			縁止めの種類を理解し、実際に使用する状況を想像して、全体のデザインに合った止め方を選ぶことができる		○	○	
	6		選んだ種類の縁止めの技法を理解し、完成度を高めて仕上げることができる	○		○	
	7	陶芸スプボール制作	陶芸の技法をまとめた動画を視聴して、制作の全容を把握することができる	○			6
			生活の中で使用するスプボールの用途に合わせた形や絵付けのデザインを考えることができる	○	○		
土練りと玉造りの技法を理解して成形し、削ることができる			○	○			
立てた計画をもとにして、発展させたデザインで絵付けと施釉ができる				○	○		
8・9							

後期	10	木エスプーン制作	制作の流れを理解し、使い勝手の良いデザインを考えることができる	○	○	○	30	
			傾斜角度を意識して実物大の図面を書き、型紙を制作することができる	○	○			
			型紙を木材に転写して木材を切り出すことができる	○				
			彫刻刀を使ってツボを彫ることができる	○	○			
			刃物や機械を使って全体の形が整ったら、サンドペーパーでやすり掛けする。この時、やすり掛けの順序や技法を理解し、要領良く作業を進めることができる	○	○			
	手順を理解して、塗装する。この時、ウエスで研磨し、完成度を高めることができる。	○		○				
	12	型染めを用いた草木染ランチョンマット制作	防染糊を用いた型染の技法や工程を把握し、型紙の役割を理解する	○	○	○		20
			切り紙を練習して、型紙づくりに応用することができる	○	○			
			できた型紙を使って防染糊を塗布し、草木染で染色することができる	○	○			
	1	錫鑄造カトラリーレスト制作	鑄造の技法や工程を理解し、一連の作品とマッチするような使い勝手の良いカトラリーレストをデザインすることができる	○	○	○		13
道具の扱い方を考えて図面をもとに油土で原型をつくることができる			○	○				
2		石膏型から油土を取り除き、錫を鑄込む。この時、できるだけ石膏型の内壁を傷つけないように丁寧に作業することができる	○	○				
		型から割り出した鑄造作品を研磨して完成度を高めることができる		○	○			
合計							105 時間	

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	3単位	学年	1年次
使用教科書	光村図書『書道 I』			副教材等	なし		

学習の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
定期考査・小テスト・ワークシート・作品等	定期考査・作品・ワークシート・振り返りシート・発表・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・提出物(作品を含む)・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	書道で学習すること 書写から書道へ	・小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認し、高等学校で学ぶ「芸術科書道」について理解する。	○		○	55
		漢字の変遷とさまざまな書体	・漢字には、五つ書体があることを理解する。 ・それぞれの書体の成立過程とその歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。	○		○	
	5	楷書の学習 「孔子廟堂碑」 「九成宮禮泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」	・「孔子廟堂碑」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・虞世南の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「孔子廟堂碑」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・「九成宮禮泉銘」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・欧陽詢の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「九成宮禮泉銘」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・「雁塔聖教序」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・褚遂良の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「雁塔聖教序」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・「顔氏家廟碑」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・顔真卿の人物像や書道史における位置づけを確認する。	○	○	○	
			6	・「顔氏家廟碑」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 ・楷書の各古典の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。			
7	行書の学習 「蘭亭序」 「風信帖」	・「蘭亭序」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・王羲之の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「蘭亭序」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・「風信帖」について、作品が作られた経緯や書風、内容と大意を理解する。 ・空海の人物像や書道史における位置づけを確認する。 ・「風信帖」の書風に即した用筆・運筆、字形等の特徴を理解し、臨書する。 ・行書の古典の書体や用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	○	○	○		

後期	8・9	うちわへの創作	・楷書または行書の古典で学習した用筆・運筆を生かした作品を創作する。	○	○	○
	10	篆刻の学習 印を作ろう	・印の使い方や種類を理解する。 ・撰文・検字から押印・補刀までの制作手順を理解し、印を制作する。	○	○	○
		半切への臨書	・今までに学習してきた楷書または行書の古典の中から好きな古典を選び、臨書する。 ・選んだ古典の書風に即した用筆・運筆を意識しながら、半切に臨書する。 ・落款の書き方について説明し、理解する。	○	○	○
	11	仮名の学習 仮名の成立と種類 いろは歌 「蓬萊切」	・漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解し、仮名の基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。 ・いろは歌で、仮名の基本的な用筆・運筆方法を学習する。 ・仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	○	○	○
	12	漢字仮名交じりの書 カレンダー創作	・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・漢字と仮名の調和した字形、漢字の大きさ、紙面への構成、目的や用途に応じた表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現について構想し、工夫する。(特に学習してきた古典の用筆などの特徴を生かした創作を意識する。) ・創作された作品の価値と根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって、捉える。	○	○	○
	1	創作活動 創作をしよう	・一年間学習してきた分野の中で、好きなものを選び、創作する。 ・各分野の用筆・運筆を念頭に仕上げられるようにする。 ・一年間の学習を振り返り、書を通して、自分を見つめ直す。	○	○	○
2						
合計				○	○	○
				105		時間

教科	情報	科目	情報 I	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	最新情報 I (実教出版)			副教材等	なし		

学習の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う。学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 情報と情報技術およびこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間の関りについて理解を深めようとしている。	様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画しようとしている。
定期考査、小テスト、ワークシート、実習データ	定期考査、小テスト、ワークシート、実習データ、発表、行動観察	小テスト、ワークシート、実習データ、行動観察、提出物、発表

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4 ・ 5	オリエンテーション	コンピュータの起動、終了の方法、OSの基本操作ができるようになる。 ファイルの保存、共有フォルダの利用方法について理解する。 ルールを守ってコンピュータ教室を使用できる。	○			35
		第1章 情報社会と私たち					
		第1節 情報社会	情報社会の現状についてインターネット等で調べることができるようになる。 情報の特性を活用した事例を挙げることができる。	○	○	○	
	第2節 情報社会の法規と権利	知的財産権の概要について理解する。 個人情報とプライバシーを保護する方法を身につけることができるようになる。	○	○	○		
	第3節 情報技術が築く新しい社会	日々進んでいる技術に関心を持ち、その仕組みや概要について調べることができる。 様々な情報技術について理解し、課題解決の方法について考えることができるようになる。	○	○	○		
	第2章 メディアとデザイン						
	第1節 メディアとコミュニケーション	メディア発達の歴史について理解する。 身の回りのメディアを特性に応じて適切に分類できるようになる。 顔の見えない相手とのコミュニケーションの危険性について考えることができるようになる。	○	○	○		
	第2節 情報デザイン	情報バリエーションやユニバーサルデザインについて、それぞれのデザインの意図が読み取れるようになる。 分かりやすく情報を伝達するための手法について考えることができる。	○	○	○		
	第3節 情報デザインの実践	プレゼンテーションソフトを使ってスライド等の資料を作成できる。 Webページの構成について理解し、簡単なWebページを作成できる。	○		○		
	第3章 システムとデジタル化						
第1節 情報システムの構成	コンピュータを構成する各種装置の機能と相互の関係を考え、適切に接続して動作できるようになる。 スマートフォンなどの身近な情報機器について、性能の向上や発展的な活用の方法を考えることができる。 ソフトウェアの種類とその働きについて理解する。	○	○	○			
第2節 情報のデジタル化	アナログとデジタルの違いについて身近な例をもとに説明ができるようになる。 2進法について理解し、10進数、2進数への換算ができるようになる。 音声、画像、動画のデータ量が計算できるようになる。	○	○	○			

	10 ・ 11	第4章 ネットワークとセキュリティ				
		第1節 情報通信ネットワーク	情報通信ネットワークの構成について理解する。 通信方式の種類やその違いが説明できるようになる。 WebサーバのIPアドレスを調べることができるようになる。 通信データの転送速度とファイルを圧縮する意義について理解する。 ファイルのデータを効率的に圧縮できるようになる。 目的に応じて、適切にインターネットのサービスを選択して利用できるようになる。	○	○	○
		第2節 情報セキュリティ	パスワードの設定と管理について考え、適切なパスワードの作成・設定ができるようになる。 コンピュータウイルスやマルウェアの被害の実態について理解し、具体的な対策を考えることができる。 情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じて、アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択することができる。	○	○	○
後 期	12	第5章 問題解決とその方法				
		第1節 問題解決	問題や問題解決の意味、問題解決の手順について理解する。 問題の発見のための現状を把握する方法について、具体的な例をあげることができる。 ブレインストーミングなどの発想法を使ってグループ内で意見の交流ができるようになる。 問題解決の結果を振り返り、自己評価や相互評価を行い改善を図ることができる。	○	○	○
		第2節 データの活用	表計算ソフトを利用して、データを収集、整理することができるようになる。 クロス集計、相関係数を用いた分析、回帰分析が行えるよう担当。	○	○	○
		第3節 モデル化	モデル化の基本的手順について理解し、問題整理のために図的モデルを作成することができる。 作成したモデルに対して自己評価、相互評価を行って改善に努めることができる。	○	○	○
			第4節 シミュレーション	シミュレーションの意義や方法について理解する。 表計算ソフトの関数を適切に選択・実行して確率的モデルのシミュレーションをいくつか実行できる。	○	○
	1	第6章 アルゴリズムとプログラミング				
第1節 プログラミングの方法		アルゴリズム、プログラムそれぞれの用語について説明することができる。 フローチャート、アクティビティ図、状態遷移図の書き方について理解し簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現ができるようになる。 プログラミングの手順を理解する。 プログラミング言語のおもな種類とその特徴について理解する。	○	○	○	
	2	第2節 プログラミングの実践	変数を使用して選択構造、反復構造のプログラムを作成することができる。 配列を使用して反復構造等のプログラムを作成することができる。 データ量と計算量の変化からアルゴリズムを評価し、適切なアルゴリズムを選択することができる。 問題解決のためのアルゴリズムを考え、試行錯誤しながらプログラムを作成することができる。	○	○	○
				合計	70	時間

教 科：自立活動

科 目：未来を拓くⅠ（１年生１０月～）、Ⅱ・Ⅲ（２・３年生４月～）

単 位：学年ごとに１単位。

但し、２以上の年次にわたる授業時数を合算して単位の認定を行うことがある。

単位認定：定期考査はなし。出席日数等、必要な要件を満たした場合に単位の認定を行う。

学習目標：個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う。

受講条件：令和２年度入学生より受講可能。この科目を受講したい場合は担任に相談すること。

受講願を受理後、校内委員会で審議したのち、受講を決定する。

授業内容：学習目標や内容は、以下の６区分２７項目から個々の課題に応じて選ぶ。

<p>1 健康の保持</p> <p>(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 こと。</p> <p>(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事 こと。</p> <p>(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事 こと。</p> <p>(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する 事 こと。</p> <p>(5) 健康状態の維持・改善に関する事 こと。</p>	<p>4 環境の把握</p> <p>(1) 保有する感覚の活用に関する事 こと。</p> <p>(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関 する事 こと。</p> <p>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事 こと。</p> <p>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況につい ての把握と状況に応じた行動に関する事 こと。</p> <p>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関 する事 こと。</p>
<p>2 心理的な安定</p> <p>(1) 情緒の安定に関する事 こと。</p> <p>(2) 状況の理解と変化への対応に関する事 こと。</p> <p>(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・ 克服する意欲に関する事 こと。</p>	<p>5 身体の動き</p> <p>(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 こと。</p> <p>(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 に関する事 こと。</p> <p>(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事 こと。</p> <p>(4) 身体の移動能力に関する事 こと。</p> <p>(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事 こと。</p>
<p>3 人間関係の形成</p> <p>(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 こと。</p> <p>(2) 他者の意図や感情の理解に関する事 こと。</p> <p>(3) 自己の理解と行動の調整に関する事 こと。</p> <p>(4) 集団への参加の基礎に関する事 こと。</p>	<p>6 コミュニケーション</p> <p>(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 こと。</p> <p>(2) 言語の受容と表出に関する事 こと。</p> <p>(3) 言語の形成と活用に関する事 こと。</p> <p>(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関 する事 こと。</p> <p>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事 こと。</p>

「総合探究」のテーマ別内容説明

No.	テーマ	定員	内容	実習費
1				
2	地域発見学習	前期 後期 各30名	高知県に関する地理や歴史、ニュースなどを学びます。各分野の専門家を招いて話を聞いたり、自分たちが校外へ出て実際に見学したり、調べたりします。	不要
3	未来へのプロセス	前期 後期 各30名	将来の職業選択を視野に入れた進路に目を向け、社会について広く主体的に学びます。さまざまな情報を収集し、それを活用する力をつけるとともに、最後に全員がテーマを決めて発表をします。	不要
4	私たちと環境	前期 後期 各30名	鏡川流域の身近な自然から、森・川・海を結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶとともに、人の生活と自然との共生について探究します。「鏡川の散策」「水生生物の調査」「浦戸湾学習」「バードカービング」など、野外実習が多くあります。	実習費が必要な場合があります。
5	国際理解	前期 後期 各30名	インターネットで外国のことを調べたり、外国の方を招き、その国の文化に触れ、理解を深めます。また校外学習もあります。	実習費が必要な場合があります。
6	生活文化創造学習	前期 後期 25名	「自分たちの生活を潤いあるものに！」を目標に取り組みます。まず陶芸では、素手で粘土をこね各自オリジナルのお皿や器を製作し、次に調理実習で作ったもの（うどん、和菓子など）を盛り付け食します。また、興味のある食べ物（お菓子）の歴史やレシピを調べ各自で冊子やパワーポイント等にまとめます。	必要
7	生涯スポーツをめざして	前期 後期 各30名	参加する人たち全員がレクリエーションスポーツを楽しみ、交流を深め、健康や体力の維持向上を図るとともに、達成感、連帯感など、精神的に充実することも目的としています。卒業後も継続し、「一生涯」楽しみながら体を動かす術を学んでもらう授業です。フライングディスク、ラケットテニス、ソフトバレーボール、ラージボール卓球、ペタンク、キックベースボール等実施予定です。	不要

*今までに登録（受講）したことのあるテーマは、前期後期とも登録できません。

教科	家庭	科目	色のトピラ	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
身の回りの色彩活用事例を通して、色彩理論を概説し、色彩文化の理解を深めさせ、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
生活の中での色の効果・取り入れ方などの基礎知識を習得するとともに、健康で楽しく生活するための色使いについて知識を深めている。	色の基本の考え方や原理を活用して、様々なシーンでの具体的な活用が考察・提案でき、衣食住における色の有効な取り入れ方、設計したことを説明したり、議論したりしている。	ライフケアカラーを活用することですべての人が心豊かな生活を送ることができるという気づきがある。
小テスト・ワークシート・レポート等	ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・質問等	授業態度・レポート・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配分
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	色の基本①	色彩活用事例を参考に、色彩文化の理解の深め方を理解させる。	○			各2時間×25回
		色の基本②	色の専門用語を理解させる。	○			
		色の基本③	配色カードで色相を理解させる。	○			
	5	色の基本④	色相環を作り、理解させる	○		○	
		色の基本⑤	グレースケールを作り、理解させる。	○		○	
		色の基本⑥	等色相面を作り、色の成り立ちを理解させる。	○		○	
	6	色の基本⑦	色の三属性を使って理解させる。	○			
		色の基本⑧	考察した事例を発表し、理解を深めさせる。		○	○	
		色の基本⑨	色彩文化を理解させる。	○			
	7	色の基本⑩	色のイメージ活用について考察した事例を発表し、理解を深めさせる。		○	○	
		色の基本⑪	等色相面を作成し、色の三属性を復習させる。	○			
		色の基本⑫	色名の由来から色彩文化を理解させる。	○			
8・9							
後期	10	色の基本⑬	色相環を復習し、色相配色形式を理解させる。	○			
		色の基本⑭	トーン表を作成し、トーンを理解させる。	○		○	
		色の基本⑮	トーン表を復習し、トーン配色形式を理解させる。	○			
	11	色の基本⑯	3色以上の配色技法を理解させる。	○			
		色の基本⑰	「衣」の色彩活用を理解させる。	○			
		色の基本⑱	「食」の色彩活用を理解させる。	○			
	12	色の基本⑲	「住」の色彩活用を理解させる。	○			
		色の基本⑳	色光を理解させる。	○			
		色の基本㉑	色覚を理解させる。	○			
	1	色の基本㉒	ライフケアカラーを理解させる。	○			
		色の基本㉓	色彩設計の意図を理解させる。	○			
		色の基本㉔	パッケージデザインについて考察した事例を発表し、知識を深めさせる。	○	○		
色の基本㉕		安全色彩について考察した事例を発表し、知識を深めさせる。	○	○	○		
合計							50 時間

教科	総合	科目	手話	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
手話の学習を通して、聴覚障害や聴覚障害者についての理解と認識を深め、聴覚障害者とのコミュニケーション手段を知る。手話で挨拶や自己紹介ができるように基礎を学び、簡単な会話ができるよう学びを深めていく。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
聴覚障害や聴覚障害者の生活について理解を深めるとともに、手話を聴覚障害のある方とのコミュニケーション手段として活用できるような基礎的な知識や技術を身につけている。	学んだ技術をもとに、課題や題材の内容について自らの考えや答えを手話を用いて表現できる。実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、聴覚障害者との関わりと福祉について主体的に学習に取り組んだり、振り返って改善しながら、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。
小テスト(実技)、レポート 実技内容	グループでの発表、手話による会話での表現、レポート	授業態度、記録ノート、行動観察、レポート

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配分
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	①手話とは	・物の形、表情、動作などの特徴をとらえ、工夫して表現すれば伝えることができることを気づかせる	○			各2時間 ×25回
		・聴覚障害者や手話の基本知識	・「伝えあうのは「ことば」だけでなく、観る力も必要であることを知る ・恥ずかしがらず表現できるようにする	○			
		・聴覚障害について		○		○	
	5	②聴覚障害者の生活		○			
		③あいさつ・指文字	・簡単なあいさつや指文字の表現を理解する。指文字をするときは、手の向きに気をつけるよう注意する。	○		○	
	6	④自己紹介	・自分のことを、手話で紹介できるようにする	○		○	
		・名前、家族、趣味、数字、仕事、案内などが手話でできるようにする	・名前の表現の仕方もさまざまであることを知る ・家族の説明は、年齢や上下関係に気をつけて表現するよう指導する	○		○	
	7	・聴覚障害者の仕事を知る	・今まで習った内容も含めて表現できるようにする			○	
		⑤県名	・都道府県の表し方を知る ・行きたい場所を手話で表現する	○		○	
	8・9	⑥復習	・前期の内容を振り返り、長期休暇の間、何をしていたか手話で表現し合う	○	○	○	
・1日、1週間		・1日や1週間のできごとを発表しあう	○	○	○		
後期	10	・会話をする	・曜日の手話を会話にとりいれる	○	○	○	
		⑦季節	・季節の表現方法を知る。 ・好きな季節、嫌いな季節を手話で表現し合う			○	
		・疑問詞の手話単語				○	
	11	・話しかける手話	・言いたいことを文章にしてから、手話で表現できるようにする	○	○	○	
		⑧さまざまな表現					
	12	・グループで表現を考えて、発表してみる	・グループを作り体験をする	○	○	○	
		⑨歌	・歌を手話で表現できることを知る ・手話で歌ってみる	○		○	
	1	⑩聴覚障害者の体験	・聴覚障害者の日常生活について話を聞き、理解を深める。 ・聴覚障害者と同じく言葉を読まずに意思を伝えあう体験をする。伝達ゲーム(身振り)で伝え合う。	○	○	○	
		⑪まとめ					
		・手話を学習して思ったことを発表する	・1年間の学習を振り返り、覚えている手話の確認や、手話による表現ができたかを確認する ・レポートの内容を手話で表現する	○	○	○	
合計							50 時間

教科	外国語	科目	ハングル入門	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

韓国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、韓国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
生活会話から韓国語の文字・発音・基礎文法を理解し、簡単な会話を聞き、読み、書き、話すことができる。	韓国語の様々なシーンでの具体的な活用について考え、表現することができる。聞き手や話し手の意図を的確に捉え、話したり書いたりしながら自分の意見を伝え合うことができる。	我が国の文化や、韓国の文化に関心を持ち、主体的に理解しようとしている。韓国語を用いて自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。
小テスト・ワークシート・レポート等	ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	・〈発音〉母音及び子音	・母音及び子音の発音と、読み書きを習得させる。	○			
		・自己紹介	・基本的な自己紹介ができるようになる。	○	○	○	
	5						
	6	・NはNです	・基本文型・物の名前を覚える。	○			
	7	・家族の呼称	・基本文型及び家族の呼称を理解させる。	○			
8・9	・Nにあります	・身の回りの物の所在が言えるようになる。	○	○	○		
	・韓国の文化に触れる	・韓国料理を作り、韓国の食文化に触れる。	○	○	○		
後期	10	・NをVます	・基本的な動詞を使い、日常生活の基本的な行動の言い方を理解させる。	○			
		・尊敬、未来形	・尊敬語と動詞の未来形を理解させ、未来のことができ言えるようになる。	○	○	○	
	11	・韓国の文化に触れる	・民族衣装を着て、韓国の楽器を演奏する。 アヒラン峠を楽器演奏と共に韓国語で歌い、異文化に触れる。			○	
		・動詞の過去形	・動詞の過去形を使用し、過去のできことや経験が言えるようになる。	○	○	○	
	12	・動詞の活用	・動詞の活用形を学習し、日常会話が話せるようになる。	○	○	○	
		・復習		○	○	○	
合計							50 時間

教科	家庭	科目	茶道入門	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標		
茶道についての知識、技術の習得を通して、日本の伝統文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
茶道の文化に親しみ、歴史や思想などの基礎的知識を理解しているとともに、それらにかかわる技能(基本の所作・点前の作法)を身につけている。	伝統文化の伝承の重要性を踏まえ、茶道の学びを通して、自然や美を感じ、譲り合いや思いやる心、感謝の心を学び、知識・技術の習得に基づいて実践的に表現することができている。	日本の伝統文化に関心を持ち、尊重し学ぼうとする意欲的な態度が見られ、技術向上のために、茶道への関心を高めようとする主体的に取り組もうとしている。
確認テスト(実技)・レポート等	記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当
				(1)	(2)	(3)	
前期	4	①客のマナー ・客のマナーを学ぶ	持ち物、客のお辞儀の仕方、襦の開け方・閉め方、客の立ち居振る舞い、蹲踞の使い方、広間の席入り、床・釜・道具の拝見、お菓子のいただき方、薄茶のいただき方、茶碗の拝見 基本の所作(座る)(お辞儀)(立ち上がる)(歩く・回る)、道具をもって入る・出る 服紗の扱い方、服紗のさばき方 籠のふき方、茶杓のふき方、茶筌どうじ・すすぎ方、茶巾のたたみ方 茶碗のふき方、風炉の柄杓の扱い方、茶杓の扱い方 水指の扱い方、建水・蓋置の扱い方	○			各2時間×25回
		②基本のけいこ 薄茶運び点前	・基本のけいこを学ぶ 道具を運ぶ、柄杓を引く、茶器・茶杓を拭く、茶筌どうじ、茶碗を拭く	○	○	○	
	6		お茶をばく、お茶を点てる、お茶を出す 仕舞いの礼、茶筌すじぎ、茶杓を拭く	○	○	○	
			中仕舞い、釜に水をさし水指の蓋をする、道具を下げる	○	○	○	
	7	薄茶小棚点前(丸卓をつかて)	道具を運ぶ、柄杓を引く、茶器・茶杓を拭く、茶筌どうじ、茶碗を拭く お茶をばく、お茶を点てる、お茶を出す	○	○	○	
			仕舞いの礼、茶筌すじぎ、茶杓を拭く 中仕舞い、釜に水をさし水指の蓋をする、道具を下げる	○	○	○	
	8・9			○	○	○	
後期	10	③風炉の薄茶点前 薄茶大棚点前(長板をつかて)	・風炉の薄茶点前を学ぶ 道具を運ぶ、柄杓を引く、茶器・茶杓を拭く、茶筌どうじ、茶碗を拭く お茶をばく、お茶を点てる、お茶を出す	○	○	○	
			仕舞いの礼、茶筌すじぎ、茶杓を拭く 中仕舞い、釜に水をさし水指の蓋をする、道具を下げる	○	○	○	
	11			○	○	○	
				○	○	○	
	12	④炉の薄茶点前 ・炉の薄茶点前を学ぶ		○	○	○	
1	⑤初釜						
合計							

教科	外国語	科目	中国語入門	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

中国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価の観点・評価方法

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
生活会話から中国語の文字・発音・基礎文法を理解し、簡単な会話を聞き、読み、書き、話すことができる。	中国語の様々なシーンでの具体的な活用について考え、表現することができる。聞き手や話し手の意図を的確に捉え、話したり書いたりしながら自分の意見を伝え合うことができる。	我が国の文化や、中国の文化に関心を持ち、主体的に理解しようとしている。中国語を用いて自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。
小テスト・ワークシート・レポート等	ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間配当
		章・節		(1)	(2)	(3)	
前期	4	・中国とは	・中国についての簡単な説明	○			各2時間×25回
		・あいさつする	・正しい発音・声調の練習	○		○	
		・名前を尋ねる	・簡単なあいさつの練習	○		○	
	5	・食べたいものを尋ねる	・質問に対する答えができるようになる ・動詞の肯定形・否定形を知る	○	○	○	
		・近況を尋ねる	・形容詞文の作り方を知る ・形容詞文を作り表現する	○		○	
	7	・予定を尋ねる	・日付・時刻の言い方を知り実際に表現する	○	○	○	
		・場所を尋ねる	・場所の尋ね方を知る ・～は～にあるという言い方を知り、質問に対する答えができるようになる	○	○	○	
8・9	・注文する	・ある・ない・持っている・持っていないの言い方を知る	○	○	○		
後期	10	・値段を交渉する	・数量の言い方を知る ・値段交渉のやり方を知る	○	○	○	
		・出来事を尋ねる	・完了の言い方を知る ・補語の使い方を知り、会話に取り入れる ・強調文を知る	○	○	○	
	11	・希望を尋ねる	・自分の希望の伝え方を知り実際に表現する	○	○	○	
	12	・行き方を尋ねる	・前置詞の使い方を知り実際に表現する	○	○	○	
	1	・経験を尋ねる	・時間の長さの言い方を知り実際に表現する ・～したことがあるという言い方を知り実際に表現する	○	○	○	

合計 50 時間

教科	国語	科目	話し方講座	単位数	2	学年	全学年
使用教科書	なし			副教材等	なし		

学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育てる。TPOに応じた話し方、雰囲気作り、独創的な自己表現方法を身につける韓国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、韓国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価の観点・評価方法		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
呼吸法・発声法の基礎的な知識について理解し、適切な発声法が身についている。 言葉の特徴や表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う事ができている。	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して伝える内容を検討することができる力を身につけている。 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる力を身につけている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、表現活動を通して人との豊かなかかわりを知るとともに他者や社会に意欲的に関わったり、言語を効果的に使おうとしている。
小テスト・ワークシート・レポート等	ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等	授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等

学期	月	学習内容 章・節	学習上の目標と留意点など	評価の観点			時間 配当	
				(1)	(2)	(3)		
前期	4	①音声要素	・腹式呼吸、発声、姿勢、表情、雰囲気作りなどに気をつけさせる	○			各2時間×25回	
		・呼吸法、発声法	・自己紹介、他人紹介		○	○		
	5 6	②日常の言葉づかいを見直す	・会話の糸口の見つけ方 ・相づちの方法、種類、変化 ・表情の作り方・言葉の選び方、敬語 ・5W1Hでの取材(聞き上手の方法)・分析(リサーチ、準備、まとめる力) ・電話のかけ方、受け方	○		○		○
		・感じのよい話し方を身につける	・表情の作り方・言葉の選び方、敬語 ・5W1Hでの取材(聞き上手の方法)・分析(リサーチ、準備、まとめる力) ・電話のかけ方、受け方			○		○
		・プラスの言葉の習熟 ・マイナスの言葉を見直す				○		○
7	③取材、分析 ・円滑な会話のための準備		○					
8・9	④TPOにあわせた会話選び	・朗読(読み聞かせ、録音・自分の声を知る) ・起承転結の訓練(構成力向上をめざす) ・短い時間での印象づくり	・朗読(読み聞かせ、録音・自分の声を知る) ・起承転結の構成の作り方について理解させる。 ・話したい内容について、起承転結を意識して文章を構成し発表する。 ・発表した内容について評価し合いながら、改善点を見つける。		○	○		○
後期	10	⑤口に出して読む ・文章を音声化して伝える				○		○
		⑥職業疑似体験	・場面体験(レポート)			○		○
	11	・どのようにしたら伝わるかを身につける	・伝え方の違いやコツを学ぶ	○				
		⑦自己アピールの表現	・プレゼンテーションや自己主張の方法について理解する。	○				
12 1	・プレゼンテーションで自分の意思を伝える	・テーマを決めてプレゼンテーション資料を作成し、発表し合う。 録画した発表を上映し、自分の発表について自己評価、他者評価を行い改善点を見つける。			○	○		
合計							50 時間	